

ウインターカップ2019

令和元年度 第72回全国高等学校バスケットボール選手権大会 岡山県予選会

日時	2019年11月3日	10:00	女子	決勝
会場名	笠岡市民体育センター			Mコート 第I試合

○ 就 実 75	$\left\{ \begin{array}{l} 22 - 21 \\ 19 - 19 \\ 15 - 15 \\ 19 - 8 \end{array} \right\}$	63 倉敷翠松 ●
----------	---	-----------

審判名	クルーチーフ	岩田友幸					1stアンパイア	岸本祥也	2ndアンパイア		柏木琢磨		
選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル	選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル
山中 茜音 (C) *	4	4		2		2	原田 亜未 (C) *	4	28	1	11	3	1
古川 裕理	5	-					妹尾 樹里 *	5	6		3		
山中 あみ	6	-					平野 愛 *	6	2		1		3
中矢 愛乃	7	7	1	2		1	産賀 菜名 *	7	10		4	2	1
松尾 梨央 *	8	24	1	10	1		中尾 心咲	8	5	1	1		4
岡村 季保 *	9	15		4	7	3	山本 明依	9	-				
島田 光理 *	10	17	1	7		3	上村 菜緒	10	-				
川崎 莉緒 *	11	4		2			荒木 若葉	11	-				
東 小梅	12	-					下橋 永奈	12	-				
佐藤 愛莉	13	-					菅野 亜梨珠	13	-				
浦 薫子	14	-					吉田 亜子	14	-				
長尾 優里依	15	4		2		2	土家 麻愛 *	15	12		5	2	4
水田 莉央	16	-					瀬戸川 小春	16	-				
前田 梨理菜	17	-					川上 ひかり	17	-				
大町 亜未	18	-					高本 夏菜	18	-				
合計		75	3	29	8	11	合計		63	2	25	7	13

戦評

決勝はそれぞれ順当に勝ち上がった就実と倉敷翠松の対戦となった。

1Q 両チームともマンツーマンディフェンスでスタート。翠松が⑤のゴール下シュートで先制する。互いにディフェンスリバウンドを確保し、就実は速攻、翠松はハーフコートオフェンスを中心に攻撃を組み立てる。就実が⑩⑧⑦らの速攻からの得点で主導権を握ろうとするが、翠松も⑮④⑤らの得点で一進一退の攻防となる。残り3分から、就実は速攻で⑧らが立て続けに得点し4点リードするが、残り1分、翠松④が3Pを決め1点差となる。その後就実⑨、翠松⑦のシュートがそれぞれ決まり、就実22-21翠松で1Q終了。

2Q 開始直後から速い展開で就実⑩⑧らが立て続けにゴールを決め、6点差となった残り8分、翠松のタイムアウト。翠松はゾーンディフェンスに切り替え態勢を立て直す。就実は外角のシュートに対応するも、落としたボールを翠松が④のドライブ、⑧の3P、⑮のインサイドで確実に得点し差を縮め、波に乗れない就実が残り5分でタイムアウト。その後就実は落ち着きを取り戻し、⑦⑩の3P、⑨のジャンプシュートで残り2分7点差までリードを広げるが、翠松も⑥④らの得点で追いつく。残り38秒、5点を追う翠松タイムアウトの後、翠松は⑦の得点、終了間際に④がゴールを沈め、両者譲らず就実41-40翠松で前半を折り返す。

3Q 就実ボールで後半開始。就実⑨がジャンプシュートを打つがならず、勢いに乗る翠松④の2Pが決まる。就実も積極的に攻めるがシュートが入らず、翠松④が3Pのファウルを誘いフリースローを2本決め、開始1分で就実41-44翠松と翠松が逆転に成功する。就実も負けじと⑧のドライブやジャンプシュートで得点を重ねるが、翠松の勢いは止まらず、46-51となったところで就実のタイムアウト。就実が懸命なディフェンスで流れを掴もうとするが翠松④が要所でシュートを決める。両者一歩も譲らないまま残り時間3分を切ったところで翠松5点リードの状態に翠松タイムアウト。翠松④がドライブでファウルをもらってもフリースローが決まらず、就実④のジャンプシュートや⑨のフリースローが立て続けに決まり、就実が再度逆転し、就実56-55翠松で3Q終了。

4Q 開始早々翠松は⑦のドライブで逆転する。両者シュートが入らない時間帯が続くも、開始3分を過ぎたところで就実⑧の3Pや⑩のドライブで再度就実63-59翠松となったところで翠松タイムアウト。挽回を狙うも、就実はディフェンスの手を緩めず相手のミスを狙う。翠松も懸命なディフェンスを見せるが、立て続けに⑧⑮がファウル。両チーム④が攻守ともに意地を見せチームを鼓舞する。残り3分になり、翠松がオールコートディフェンスで巻き返しを狙うが就実⑩が落ち着いてシュートを決め、就実69-62翠松とする。翠松が果敢に攻めるがシュートが入らず、就実⑩⑧が確実に点数を重ねてリードを広げ、残り36秒で翠松最後のタイムアウト。最後までリングに向かうも得点ならず、就実75-63翠松で就実が勝利し、7年連続23回目のウインターカップ出場を決めた。

